



1 日時 2021年2月9日午後7時～8時20分

2 場所 Zoom会議

3 参加者 寺本佳代(弁護士)

北仲千里(広島大学准教授)

田中洋子(広島女学院大学非常勤講師・社会福祉士)

上手由香(広島大学准教授)

河野美代子(産婦人科医)

(事務局) 森川身江子・藤井裕嘉・狩山満香

4 協議内容

(1) 自己紹介

初回の会議なので、参加者及び事務局から所属及び活動歴等の自己紹介の時間をとった。

(2) 「にんしんSOS広島」事業概要について説明

「産前・産後母子支援事業の進捗状況」等の資料をもとに、にんしんSOS広島の相談事業等について説明

- メール及び電話により年間600～800件の相談があるが、6割が「妊娠したかも」との不安からの相談。またリピーターが増加傾向にある。
- 面談及び同行支援 ～ 病院同行・行政窓口同行・他機関への同行
- 保護を要する相談は今までのところはないが、すぐに県で保護してもらおうのではなく、シェルターで生活することでまず安心安全を実感してもらい、それから県につながることを考えている。
- 予算としては県から715万円、日本財団からの助成金503万円で運営している。

など

(3) 質疑及び意見交換

事業概要の説明を受けて質疑及び参加者相互の意見交換を行った。

- 相談者の保護について広島県の現状について質疑があり、広島県の対応について説明。
- 保護を必要とするケースについて、北海道では行政窓口を経由せずに婦人保護施設で一時保護できる等の紹介があった。

広島県は、まず児相で保護し、その後、施設に保護を委託することになっている。全国的にも北海道のようなケースは稀有だと聞くが、「にんしんSOS広島」へ助けを求めてきた相談者を、直接、一時的にでも保護できる「安心な居場所づくり」に取り組んでいきたい。

など

5 おわりに

相談者の背景は、生活保護を受給している女性、貧困家庭で暮らす10代、若年の母親など様々な困難があるが、連絡会議のメンバーの皆さんから助言等をいただき、今後も相談者の意思を尊重し、切れ目のない支援ができるように取り組んでいきたい。